

<図書紹介> 『カントを学ぶ人のために』 有 福孝岳, 牧野英二編 世界思想社 2012年

近堂, 秀 / KONDO, Shu

(出版者 / Publisher)

法政哲学会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

法政哲学 / 法政哲学

(巻 / Volume)

9

(開始ページ / Start Page)

54

(終了ページ / End Page)

54

(発行年 / Year)

2013-02

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00008789>

【図書紹介】

『カントを学ぶ人のために』

有福孝岳／牧野英二編 世界思想社 二〇二二年

近堂 秀

本書は、二一世紀のグローバル化時代にイマヌエル・カントの人物と思想を学ぼうとする読者のために編集された入門書である。本書の特徴は、カントの批判哲学とその根本にあるコペルニクスの転回思想に重点を置きつつ、最新の研究動向や研究成果を取り入れているところにある。

本書の内容は、次の通りである。全体は、カントの生涯と著作活動が「さわめてわずかの言葉」によってではあるが手際よくまとめられたⅠ「カントの生涯と著作」を導入として、一般読者に向けてカントの哲学思想の特徴・意義・制限が論じられたⅡ「カントの哲学思想」とⅢ「カントと現代」により構成される。Ⅱ「カントの哲学思想」は、第一章「批判哲学とは何か」、第二章「理論哲学——認識と存在の問題——」、第三章「実践哲学——道徳と宗教の問題——」、第四章「芸術哲学と目的論——美と合目的性——」、第五章「カントの歴史哲学」、第六章「法と政治の原理」、第七章「人間学——道徳哲学との関係を中心に——」からなり、カントの哲学思想が体系的に取り扱

われている。特に第二章では空間と時間、認識能力の働き、カテゴリーの問題、図式論と原則論、物自体・対象・實在、理性と無制約者、自然科学の形而上学的原理が、第三章では自由の問題、善意志の倫理学、定言命法とはなにか、最高善の問題、根本悪の問題が、第四章では反省的判断力と合目的性の原理、美的判断と趣味の問題、共通感覚、目的論と生命の問題がそれぞれ各節で取り扱われており、主要著作の『純粹理性批判』、『実践理性批判』、『判断力批判』と関連著作について体系的に学ぶことができる。Ⅲ「カントと現代」は、第一章「応用倫理学に召喚されるカント」、第二章「カントの永遠平和論と現代の世界」からなり、カントの哲学思想の今日的意義が明らかにされている。さらに、各章ごとに「コラム」が設けられ、関連テーマが斬新な視点から考察されている。最後には詳細な「カント年表」が付けられている。

一例を挙げると、物自体の問題が現代の實在をめぐる論争の文脈に置かれたうえで、初学者にも理解できるように論じられている。本書は、これからカントについて学ぼうという人はもちろん、グローバル化時代にカントを読み直すという人にとっても、刺激的な入門書である。